

## R4久留米市セーフコミュニティ事前指導（オンライン）スケジュール

※時間は、審査の状況により前後する場合があります。

	1日目 12月20日（火）	2日目 12月21日（水）	3日目 12月22日（木）
9:00			
10:00		10:00~10:50 外傷等動向調査 委員会	10:00~10:50 学校安全
11:00		11:10~12:00 DV防止対策委員会	11:10~12:00 交通安全 対策委員会
12:00			
13:00		13:30~14:20 防災対策委員会	13:30~14:20 自殺予防 対策委員会
14:00		14:40~15:30 児童虐待防止 対策委員会	14:40~15:30 審査員ミーティング
15:00	15:00~15:50 全体説明		15:40~16:30 (第22回久留米市 セーフコミュニティ推進協議会)
16:00	16:00~16:50 防犯対策委員会	15:50~16:40 高齢者の安全 対策委員会	

# プロフィール

## 審査員

### ◆チョ・ジュンピル(趙 俊秘)◆

- 医学博士
- アジョー大学救急医療部(韓国 水原市) 教授
- 地域安全向上センター(同上)<sup>(\*)</sup> センター長
- 国際セーフコミュニティネットワーク 副理事長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- "International Distinguished Safe Community Career Award"受賞(2010年)



(\*) セーフコミュニティ支援センター・インターナショナルセーフスクール支援・認証センター

1983年 延世大学医学部卒業後、外科医として経験を重ね、1996年より救急外科医となる。受傷による救急外来の患者の治療にあたるなかで治療だけでなく予防の重要性を感じるようになる。その後、アメリカでの研究時代にSCの概念に出会ったことをきっかけに韓国にSCの概念を紹介した。2000年に韓国で初めて水原市がSCを導入した際に支援したことをきっかけに、アジョー大学医学部に地域安全向上センター(韓国におけるSC支援センター・ISS支援及び認証センター)を設置した。

国際SCネットワークの副理事長、アジア地域SC支援センター連合の副理事長として国を越えてSC推進に尽力している。日本においても、ほとんどのSC推進自治体を訪問しており、事前指導や現地指導において、救命救急医としての豊富な経験を生かした支援をいただいている。

### ◆ワン・シュメイ(王 書梅)◆

- 博士(公衆衛生)
- 復旦大学公衆衛生学部(中国 上海市) 教授
- 国際セーフコミュニティネットワーク 理事
- セーフコミュニティ公認認証審査員



上海医科大学卒業し、公衆衛生において修士号を取得。上海体育研究所(学院)スポーツ医学部や上海医科大学での経験を経て、現在は、復旦大学公衆衛生学部において教授を務める。

2001年に、オランダにて「ヘルシーシティ」を研究した際にセーフコミュニティに関心をもって以来、セーフコミュニティに焦点を置いた研究及び教育を行っている。

国内においては、中国教育省の学校保健及び食の安全専門委員会のメンバーとして研究を進める。また、上海エリアの自治体等へセーフコミュニティ活動の支援及びコーディネートを行っている。

国際的には、日本をはじめ韓国、タイ、ベトナムなどにおいてセーフコミュニティ及びセーフスクールの認証審査の経験を持つ。

## コーディネーター

### ◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)代表理事  
(セーフコミュニティ支援センター)  
(インターナショナルセーフスクール認証センター)
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- "International Distinguished Safe Community Career Award"受賞(2017)



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。現在、13の自治体のSC活動を支援するとともに、セーフスクールの推進にも力を注いでいる。